

企業講演 I

黒酢濃縮粉末含有食品の体脂肪低減効果

株式会社えがお 研究開発部 濱舘 直史

多くの疫学データによって、肥満は3つの生活習慣関連疾患である、糖尿病、脂質異常症、高血圧症の発症リスク増大に関連することが示されている。これらの病状の一群は、メタボリックシンドロームと呼ばれ、肥満（特に腹部の肥満）が高血糖、高脂血症、高血圧と併発することで、心血管疾患の発症リスクに大きく関与すると考えられている。したがって、肥満の予防・改善は、生活習慣関連の慢性疾患を防止するための必須事項であると考えられる。

適度な運動により、エネルギー消費が増加することで肥満は解消される。また糖代謝が活発になり糖尿病など関連疾患が予防・改善されることはよく知られている。骨格筋の量と質はその機能にクリティカルであり、身体活動・環境・病態などによって変化する。例えば、運動トレーニングを継続することにより、骨格筋の量は増加するが、その効果は栄養状態に大きく左右される。よって、肥満を中心とした生活習慣関連疾患の予防・改善には適度な運動はもちろん、日常で偏りがちな栄養を補助していくことも重要である。

黒酢の原料は米、米麹、地下水であり、半年～3年ほど壺の中で熟成させることで黒酢となる。黒酢は、酢酸以外に発酵の過程で生じたペプチドやアミノ酸、ビタミン、ミネラル、クエン酸などの有機酸などを含んでいる。黒酢は生体に対して、血圧調節作用、血糖調節作用、血中脂質調節作用などをもつことが報告されている。しかしながら、黒酢と肥満の関係は未だ科学的な検証が十分ではない。

以上のことより、我々は、特に黒酢の肥満改善に関する可能性に着目し、研究に取り組んできた。九州大学との共同研究にて、ラットに黒酢を摂取させることによって、脂肪吸収を抑制することおよび脂肪細胞内PPAR γ とaP2のmRNA発現減少を介して脂肪細胞を小さくすることを報告した。また、ヒトに対して、黒酢含有食品の摂取と適度な運動を合わせて継続することによって、体脂肪低減、骨格筋減弱抑制、エネルギー代謝改善などに有効である可能性を見出している。